

---

# チェス

キョン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

チエス

### 【Nコード】

N8116S

### 【作者名】

キヨン

### 【あらすじ】

チエス部の16人の皆さんおはようございます。  
あなた達には『チエス』をしてもらいます。  
ルールは通常のチエスと変わりません。  
ただし通常のチエスと異なる点が3つあります。  
1つ目は皆さんが駒であること。  
2つ目は順番に駒移動の決定権が回ってくること。  
3つ目はとられた駒の役はルール通り 死にます。

部員達の友情と裏切りのゲームが始まる。

## ゲームの参加者の確認(前書き)

更新は週間ペースでいけたらいいと思っています

## ゲームの参加者の確認

### 駒形高校チエス部のメンバー

部長3年：王寺輝幸おおじてるゆき

副部長2年：姫川弥生ひめかわやよい

部員3年：間将也まはま まさや

部員3年：城ヶ崎文じよつがさきあや

部員3年：工藤悠騎くどう ゆうき

部員2年：天城葵あまぎ あおい

部員2年：矢車千次やぐるませんじ

部員2年：瑪瑙瑠華めのう るか

部員1年：麻野歩武あさの あゆむ

部員1年：木原克弘きはらかつひろ

部員1年：寺沢亮輔てらさわじょうすけ

部員1年：如月仁きづき じん

部 員 1 年：林すみれはやし すみれ

部 員 1 年：神崎由紀子かみさき ゆきこ

部 員 1 年：篠原久美しのはら くみ

部 員 1 年：九重あゆここのえ あゆ

上記の16人で『チエス』を開始します  
ここで起こったことについては政府は関与しないので安心してくだ  
さい

それではごゆっくりお楽しみください

## ゲームの参加者の確認（後書き）

本編は次回からです

僕はこれを書ききることができるのだろうか・・・

## ルール説明（前書き）

GW中に一本あげないといけないと・・・



## ルール説明

目が覚めたとき、俺は状況が理解できなかった。

まず俺の状況の整理をしよう。

俺こと王寺輝幸は確か学校から帰る途中だった。

その時に俺はたしかコンビニに寄り道して雑誌を買ったはず。

コンビニから出て、そのあとの記憶がない。

で、今俺はここにいる。

ここはどこだ？

俺は黒い柱みたいなものに固定されている。

俺の周りにも同じようなものがある。

前の柱の形は・・・ポーン？

右の柱はビショップか？

そして左はクイーンということは・・・。

俺はキングか！

クイーンには姫川、ビショップには将也が固定されていた。

気を失っていて、ぐったりしていた。

「おい姫川！将也！起きろ！」

何回か呼びかけていると、将也が気がついた。

「ん？ああ、輝幸かあ。・・・ああ！？んだよこれっ！おい輝幸い説明しろ！」

「俺もわかんねえよ。気がついたらここに縛りつけられてたんだ。今はじっとしてるんだ。」

その時に、上にあつたモニターにチェス盤が映しだされた。

『みなさーん。起きてくださーい。ゲームが始まりますよー。』

みなさん？まさかモニターに映しだされているのは今この状況なのか！？そしてこの駒すべてに人がくくりつけられてるのか！

『はい。皆さん起きましたねー。じゃあ点呼とるから元気よく返事をしてねー。王寺輝幸いー』

急に呼ばれた俺は、「ええ！？あつはい。」腑抜けた返事をしてしまった。

『ちゃんと返事してくださいねー。次いー姫川弥生！』

「はい・・・」

気が弱い姫川は弱々しい返事をしてた。

『なんですかぁーこの部活はぁー。みんなやる気がないですねえー。』

この部活！？まさか16の駒全部チエス部の16人なのか！？

『面倒だからいつぺんに言うぞぉー。間将也、城ヶ崎文、工藤悠騎、天城葵、矢車千次、瑪瑙瑠華、その他ポーンの1年なぁー。』

まじかよ・・・一体どうなってんだ！？

『ルール説明するからな。1回しか言わないからちゃんと聞けよお』

ルール説明？最初に言ってたゲームってなんだ？

『君達にはチエスをやってもらいます。ルールはほとんど変わりますが、3つほどルールが違います。1つ目は君達が駒ね。2つ目は順番ね。1年の麻野、木原、寺沢、如月、林、神崎、篠原、九重、2年の天城、矢車、瑪瑙、3年の間、城ヶ崎、工藤、副部長の姫川、そして部長の王寺の順番なぁ。3つ目え、駒がとられた場合その駒の人は死ぬからぁ。1ターン10分の時間制限。時間制限を過ぎたら強制的に負けで全員に死んでもらいます。キングをとられても全員に死んでもらうんで。質問ある？ないね？じゃあスタート』

モニターにカウントダウンタイマーが映しだされ、静寂が広がった。

## ルール説明（後書き）

これ書き上げられる自信がない・・・

### 1〜3ターン目（前書き）

やっぱ無理でした。  
不定期です。期待しないで。

## 1〜3ターン目

俺は理解ができなかった。周りを見てもみんな目の焦点が合っていない。みんなも状況が理解できていないのだ。

画面の時間が9分を切ったときに俺は我に返り、みんなに向けていった。

「みんな大丈夫か？みんな落ち着いて聞いてくれ。決してパニックになるなよ？」

俺は前置きを置いてみんなに話しかけた。

「まず俺たちは拉致られたらしい。今の状況を見てもわかる通り、俺たちは拘束されている。そしてさっきのルール説明の話を聞くと俺たちはチエスの駒に拘束されている。そしてその駒でチエスをしなければならぬらしい。駒をとられると、その駒にいた奴は死ぬらしい。だが死ぬといつても脱落、とかそういう意味で実際に死んだりしないだろう。」

隣にいる姫川は、少しだけ顔が和らいだ気がした。俺はそのまま続けた。

「だいたいこんな16人の人がいなくなったら警察も動く。本当に死ぬことはないだろ。」

俺はみんなに心の余裕を持たせるように話した。そのせいか、誰も騒ぐことはなかった。すると姫川が小さな声でいった。

「そうよね……。死なないよね……。」

「だいたいまし本当に死んでも、駒がとられなければいいんだろ？  
難しいけどどうにかなるさ！」

将也が大きな声でみんなに聞こえるようにいった。将也も俺の意  
見を後押ししてくれたのだ。

「じゃあ時間も5分を切ったから。麻野！よろしく頼む。」

俺は麻野に向かって指示をした。麻野は我に返ったように俺の言  
葉に反応した。

「わかりました……。でも何を動かせばいいですか？そう軽々と  
動かせませんよ。」

俺はこの時焦って麻野にふった。しかしよくよく考えてみるとそ  
うだ。人の命を抱えているかもしれないんだ。一年生に動かせられ  
るわけがない。

「ごめんな麻野。わかった、俺が決めるから順番通りにおれの言う  
ことをいつてけ。麻野、？ - 5 ポーンだ。」

「ちょっと待つてよ！俺が動かされるんですか！？」

寺沢があわてて叫んだ。しかし俺は寺沢が抗議することなどはわ  
かっていて、その対処法も考えていた。

「お前の気持ちもわかるぞ。でもな、ここで動かなかつたら時間切  
れなんだ。すべての意見を通していくとどうにもならない。寺沢、

「ここは大人になってくれ。」

寺沢は黙り込んだ。だがしばらくすると、すねたように寺沢がこ  
ういった。

「わかりましたよ先輩。おい麻野！早く駒を進める！」

「はいはい。？-5 ポーン」

麻野が言い終わった瞬間に、寺沢のポーンが動き始めた。どうや  
って動いているのか知りたいところだ。ポーンの動きが止まったと  
き、タイマーが止まった。それから10秒もたたずに相手のポーン  
が？-5の位置にきた。思考時間短いな……。

「次、木原。？-4 ビシヨップだ。」

「？-4 ビシヨップ」

木原は俺の言葉をそのまま復唱した。ほんとにこいつは感情を表  
に出さないな。ビシヨップが位置についたら次もすぐに、敵のナイ  
トが？-6についた。相手はもしかしなくてもバカなのか？

「寺沢、？-5 ポーンだ。」

「ちょちょちょちょ！ナイトの範囲じゃん！これは無理っすよ  
先輩！なに考えてるっすか！」

寺沢がまた抗議した。まったく……。よく盤をみるよ。

「大丈夫だ。後ろにビシヨップがいる。相手はナイトを犠牲にして



「までポーンを取りに来ない。」

「あ。そつすね。じゃあ？ - 5 ポーン。」

前言撤回。ここで一番バカなのは相手じゃなく寺沢だ。

ポーンが位置についたら、次は相手だ。ポーンを取りに来るはずは・・・あ？。ナイトがポーンに向かってくる？は？わけわからん？

・・・まさか相手は！

刹那。寺沢のポーンが消えた。いや下の地面が開いて落ちたのだ。寺沢が何かを言っているがもう聞こえない。聞きたくない。そして静寂だけが残った。

1～3ターンの目（後書き）

遅くなっても反省はしてません

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8116s/>

---

チェス

2011年10月9日00時56分発行